

調査報告概要表

作成日 2008年9月26日

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入) 4672900190
法人名	医療法人 健誠会
事業所名	グループホーム すこやか
所在地 (電話番号)	日置市東市来町湯田3007 (電話) 099-274-3672

評価機関名	特定非営利活動法人福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5前田ビル1F
訪問調査日	平成20年9月26日

【情報提供票より】(20年 9月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 4月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	16 人
利用定員数計	18 人
常勤	6人
非常勤	12人
常勤換算	15.2人

(2) 建物概要

建物形態	併設 (単独)	(新築) 改築
建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 1.2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	900 円	

(4) 利用者の概要(5月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	7 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.9 歳	最低	73 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	湯田内科病院・こだま歯科クリニック
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅地に建ち、ホームの玄関周辺には季節の花々が植えてあり、ホームの裏手には菜園を設けるなど、利用者が和める環境が整っている。建物は広い共用空間があり落ち着いた雰囲気、日中は利用者が過ごしやすく、職員と共に会話や歌を楽しむなど、支えあいながらも楽しくすごすことができる。同一法人に医療機関もあり、利用者の健康管理を行い家族からの信頼も厚い。また、利用者が楽しめる行事も多く、利用者・職員も明るく話しやすい雰囲気である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の「家族等への連絡」は書式を変更し改善されている。「重度化や終末期に向けた方針の共有」は検討はされているが、文書化まではいたっていない。前回の外部評価時の自己評価をスタッフで話し合い、サービスの質の向上に活かそうと取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者をはじめ職員は、自己評価及び外部評価の意義を理解し、全員で取り組み、昨年の評価結果も職員でよりよい運営を目指して話し合われている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域住民の代表や民生委員、地域包括支援センター職員が出席しており、それぞれの立場からの意見をいただき、運営に役立っている。介護相談員の受け入れが行われ、市の担当部署や地域包括支援センターへは、書類の提出・訪問・相談を通して、問題解決に向けて協働して取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者の暮らしぶりや金銭管理は、毎月個々にあわせた報告をしている。日頃から職員に対して苦情を訴えやすい雰囲気作りに努めており、家族との会話の中から要望をくみ取るようにしている。出された苦情・要望は、内容の詳細を職員で改善にむけて話し合いを行っており、運営に反映させ運営推進会議で報告している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域自治会の催事に積極的に参加しており、近隣の保育園や小学校、特養との交流を図っている。地域の方から野菜をいただく等日常的にホームに立ち寄ってもらえる関係もできている。

調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域社会の一員として」安心して過ごせるという地域密着型サービスの趣旨を反映させた理念をつくりあげている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を掲示するとともに、すこやか会議やミーティング、勉強会時に理念の具体的な実践について話し合いが行われ、実践的な理念に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域自治会の催事に積極的に参加しており、近隣の保育園や小学校、特養との交流を図っている。地域の方から野菜をいただく等日常的にホームに立ち寄りもらえる関係もできている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者をはじめ職員は、自己評価及び外部評価の意義を理解し、全員で取り組み、昨年の評価結果も職員でよりよい運営を目指して話し合われている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民の代表や民生委員・市職員が出席しており、それぞれの立場からの意見をもらい、運営に役立てている。時には他のグループホームの管理者にも出席してもらう等、外部からの意見を重視している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	担当部署や地域包括支援センターへの訪問・相談を通して、気軽に話せる関係づくりを築いており、問題解決に向けて協働して取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや金銭管理は、お便りの書式を変更し、毎月個々にあわせた報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から職員に対して苦情を訴えやすい雰囲気作りに努めており、家族との会話の中から要望をくみ取るようにしている。出された苦情・要望は、内容を職員で改善にむけて話し合っており、運営に反映させ運営推進会議で報告している。また、年2回開催する家族会においてアンケート調査を行い、家族の意見をくみ取る努力をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理運営者は、馴染みの関係の重要性を理解しており、職員の交代がある場合は引継ぎを十分に行い、利用者へのダメージを最小限に防いでいる。異動した場合には広報誌等でご家族へお知らせしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を立て、法人内研修やホーム内勉強会を行うとともに、外部研修には交代で出席している。全体会議や申し送りの中で研修報告を行うとともに職員の質の向上に努めている。介護福祉士の合格者を出すなど、働きながら資格取得することをホーム全体でバックアップしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協議会に加入し、職員が交代で交流会へ参加している。他ホームの運営推進会議に出席しあい、情報交換に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前にはできるだけホームの見学をしてもらい、見学に来れない方には管理者が出向いて顔なじみの関係を作るような取り組みをしている。また、関係機関の行事等で入居者との交流をして、好みや場に馴染めるような配慮を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護ではなく、支援するという気持ちでスタッフは接し、職員と利用者が一緒に季節の野菜を栽培したり、漬物作りをする中で共に過ごす関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの話に傾聴し、日々のかかわりの中で思いや意向の把握に努めている。コミュニケーションがとりづらい場合は、家族へのお便りや家族会の中で家族と話し合い、本人本位に検討し、ケアプラン担当者会議の中で本人意向の確認を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に職員や家族と検討し、利用者主体の介護計画を作成している。職員の気づき、家族の意見の確認は、介護計画作成時だけでなくサービス担当者会議時や、日常的に行うようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族の意見・要望を取り入れ、状態の変化が生じた場合、そのつど見直しと毎月のモニタリングを行い、会議で介護計画の見直しの必要性を全職員で検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の通院介助や外泊支援、個別買い物支援を行っており、家族宿泊時は食事を提供できる体制はある。家族で外出の場合車イス等の必要な物について貸し出しも行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医選択においては利用者及び家族の希望を大事にしており、その上で協力医療機関の支援をもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関する指針は家族会・職員間で話し合われているが、方針の具現化までいたっておらず文書化はされていない。	○	重度化した場合や終末期のあり方について、事業所の方針を文書等にて明確にし全員で共有して、利用者や家族が安心してサービスを利用できるようにしていただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々のケアの中で利用者への言葉遣いや職員間の会話に配慮するように心がけられ、さらにすこやか会議やミーティング等でそのつど確認している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日課、流れの中で健康状態や変化を把握し、利用者一人ひとりのペースや希望を取り入れ、その日の体調や気分に合わせて支援ができるよう努力している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ケアプランを通して一人ひとりの食事を把握し、調理・片付けなど能力に応じてしてもらい、職員も同じ食事を同じテーブルでとることで和やかな雰囲気の中、食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の体調と希望に応じて入浴支援を行っている。入浴を拒まれる場合は、無理強いせずに時間を変えるなど個別に対応し、行事で温泉へ出かけ入浴の楽しみを味わってもらう支援も行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は、家事(洗濯・洗い物・掃除・料理)や野菜作り、折り紙等の趣味を楽しんだり、他の利用者の世話をすることでそれぞれの役割を見出している。職員は、車椅子の利用者も力を活かせるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や外気浴など日常的に屋外に出るほか、地域行事への参加や、週2回の食事の買い出し等職員と一緒にを行う支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にベルを設置し、玄関や各居室に鍵をかけない自由な暮らしの支援を行っている。職員は、利用者の状態を把握し、外出傾向がある方の場合にはドライブに出かけたり、さりげなく一緒に散歩に出るなどの支援をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間を想定した避難訓練を含め、定期的な訓練を行っており、消防関係者や地域住民の協力を得ている。備蓄について、近隣の法人医療機関にはされているようだが、ホーム独自に災害時に必要とされる備蓄が十分でない。	○	非常用食料・備品の準備について検討していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士からアドバイスをもらい、水分・食事摂取量を個人ごとに記録している。スタッフ全員で把握し、嚥下障害のある利用者には、きざみやとろみをつける等の工夫を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく家庭的で、生活感や季節感が感じられる空間となっている。窓は大きく、過ごしやすく、利用者は、和室やソファなど思い思いの場所でくつろいでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや思い出の写真をはじめ、テレビや位牌、趣味の品など利用者の馴染みの道具が多く見られる。		